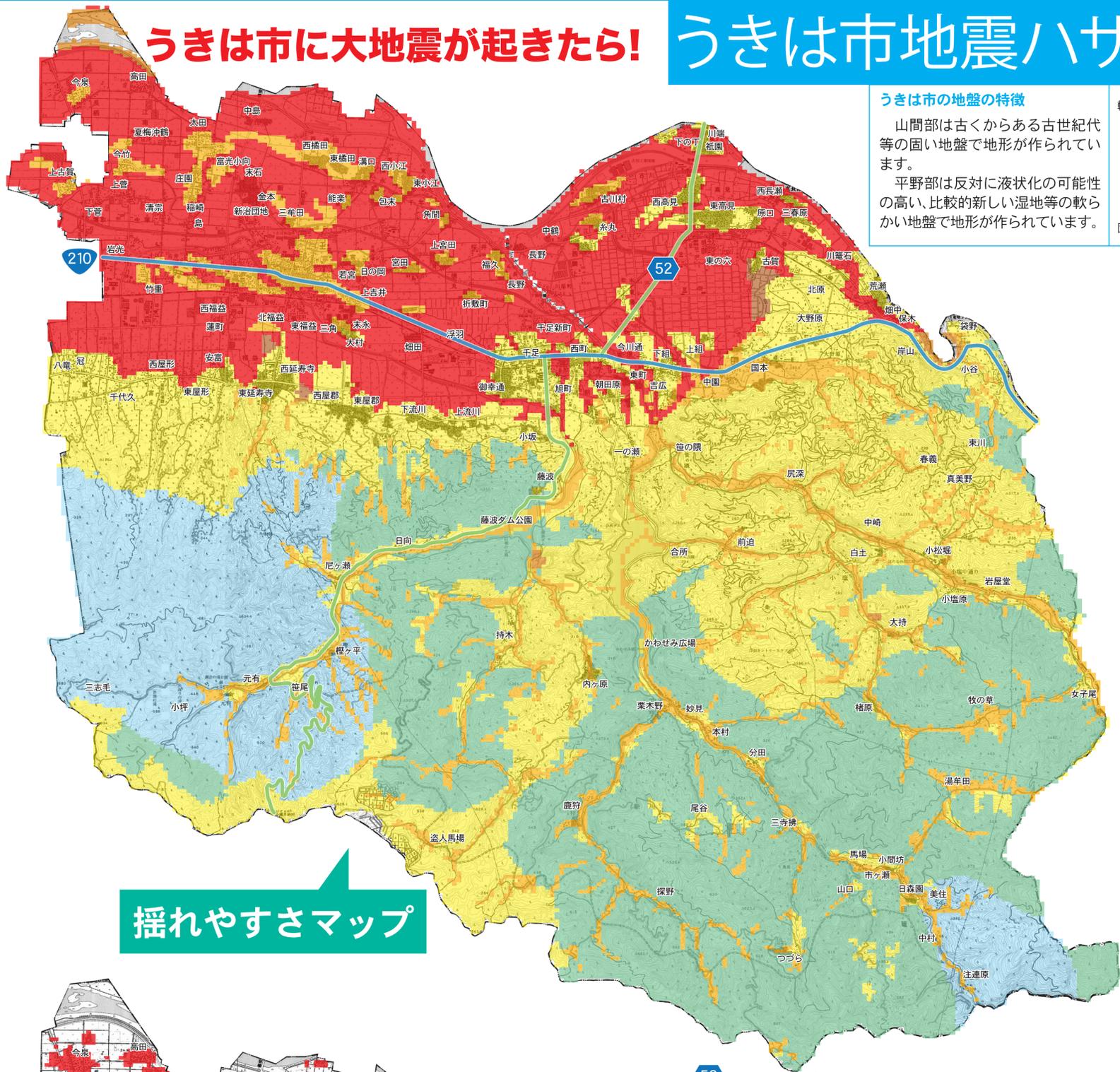


うきは市に大地震が起きたら!

うきは市地震ハザードマップ



揺れやすさマップ

うきは市の地盤の特徴

山間部は古くからある古世紀代等の固い地盤で地形が作られています。
平野部は反対に液状化の可能性の高い、比較的新しい湿地等の軟らかい地盤で地形が作られています。



揺れやすさマップとは

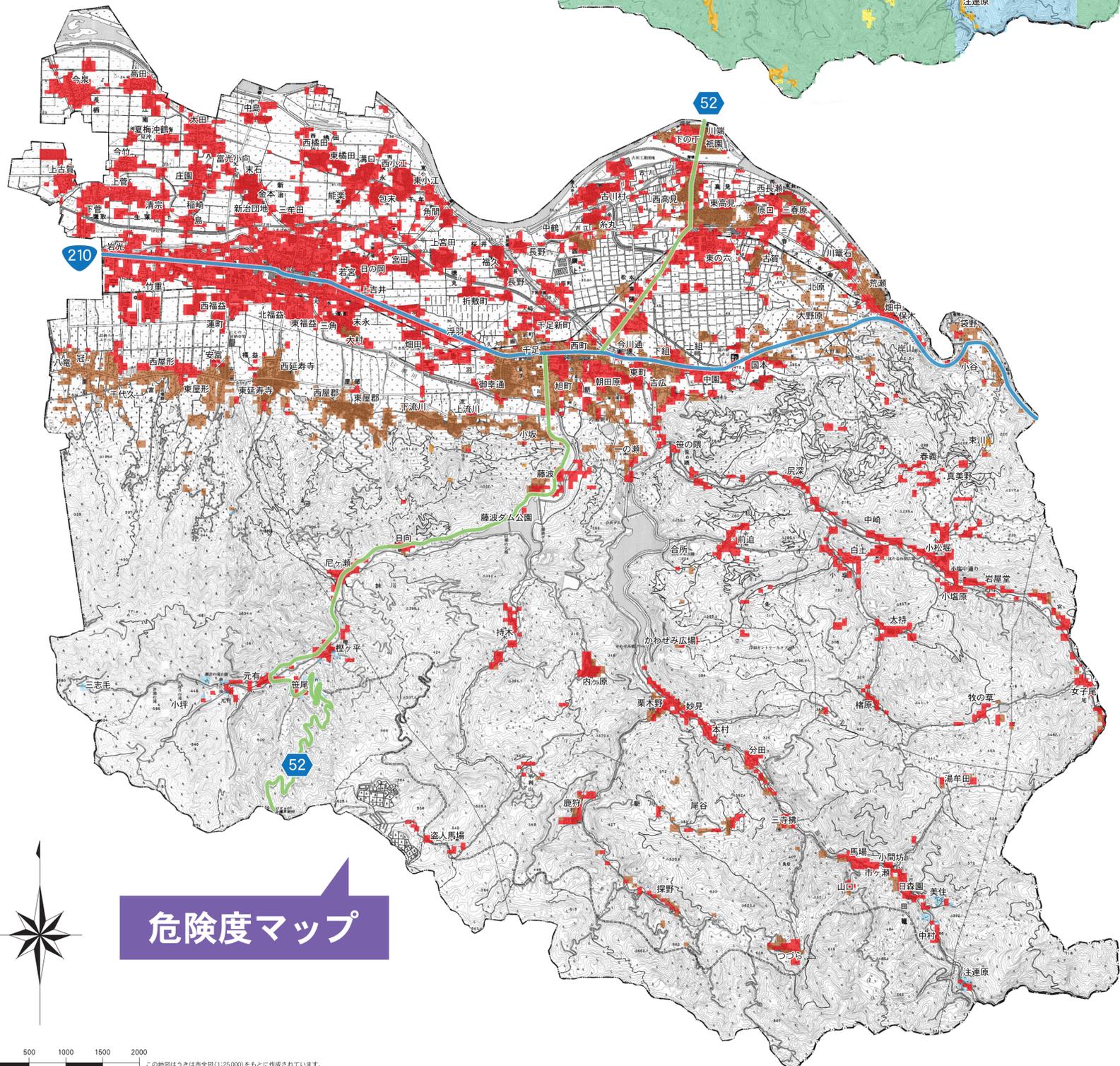
地震が発生した場合、震源の位置や地盤の固さによって揺れの大きさは違います。(裏面参照)本揺れやすさマップは、うきは市でおきる可能性のある大地震がおきた場合の各地の揺れを震度で表した地図です。
揺れやすさを計算するために想定した地震は、大きさがマグニチュード6.9でうきは市全体が震源となる大地震です。
※ただしこの地震が今後30年間で起きる確立は、0.1%未満とされています。

揺れやすさマップ 凡例

震度階級

震度7	□人間 揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。	強
	□屋内の状況 ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものもある。	
	□屋外の状況 ほとんどの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されているブロック塀も破損するものがある。	
震度6強	□人間 立っていることができず、はわないと動くことができない。	↑
	□屋内の状況 固定していない重い家具のほとんどが移動、転倒する。戸がはずれて飛ぶことがある。	
	□屋外の状況 多くの建物で、壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	
震度6弱	□人間 立っていることが困難になる。	弱
	□屋内の状況 固定していない重い家具の多くが移動、転倒する。開かなくなるドアが多い。	
	□屋外の状況 かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。	

※震度6強については、同じ震度でも建物被害のありさまに幅があるため、その違いが分かるように5段階に色分けしています。



危険度マップ

うきは市

第1次緊急輸送道路

第2次緊急輸送道路

緊急輸送道路とは、大地震がおきた場合に避難・救助をはじめ、物資の輸送、施設の復旧などの対策活動を実施するために災害時にも通行を確保するために設定された道路です。

第1次緊急輸送道路とは、主に県内外との輸送に必要な高速道路、一般国道(指定区間のみ)等で幹線道路として県が指定した道路です。

第2次緊急輸送道路とは、第1次輸送道路と、各地区とのネットワークを結ぶ道路として県が指定した道路です。

危険度マップとは

「揺れやすさマップ」で表した揺れが各地で発生した場合、建物が木造か、そつでないか、また古いか、新しいかの違いにより倒壊する建物数が違ってきます。国が示した計算式により、地区別に建物倒壊の割合(倒壊率)を計算し、それを地図に表したものが「危険度マップ」です。
これは、震度が高い地域でも、建物が新しく、耐震構造等が多ければ建物倒壊の割合は低く、逆に震度が小さくても、木造の古い建物が密集している地域であれば、建物倒壊の割合が高くなることを示しています。

危険度マップ 凡例

倒壊危険度	地域内の建物の中で全壊する建物の割合
30%~	
3%~30%未満	
3%未満	